

全国の美術愛好家が描くまちの風物 「地展」13年ぶりに内子で開催

一地域の風物を四季を通じて描く絵画展「地展」地域を描く美術展」の対象地域に、内子町が13年ぶりに選ばれました。この催しは全国的美術作家が絵画制作をしながら地域の文化や歴史に触れ、展示を通じて魅力を発見・発信するために開かれています。今回は「内子町を描く絵画展」として応募された102点を愛媛県美術館で展示。そのうち受賞作中心の52点



五十崎風博物館（上）、横田酒店のギャラリー「創是」（下）でも展示。美術歴80年近い作者もいたそう

は7月21日までの約1カ月間、道の駅からりや伊予銀行内子支店など町内5会場でも展示されました。題材は四季の風景や町並み、大風合戦など幅広く、作風もリアルなものから独特な色遣いのものでさまざまです。アンバサダーを務める元NHKアナウンサー・武内陶子さんの作品もあり、観覧者は作者ごとの視点とまちの魅力を、じっくりと味わっていました。

魅力は美しい風景、自然、人の温かさ 外から目線で中学生に伝える特別授業

内子中学校1年生の「総合的な学習の時間」の授業で、地域おこし協力隊の講話が7月7日に行われました。ふるさとを再発見し、課題を主体的に解決する力を育てることを目的に初開催。町外出身の協力隊やOBなど4人が講師とな

り、それぞれの活動で感じた内子の魅力や課題を生徒に伝えました。山内大輔さんは「きれいな景色を守ろうという誰かの積み重ねが、今の内子をつくっている。自分の暮らしを良くするため、みんなも一緒に行動しよう」と呼びかけました。



「ふるさとの良さを声にして伝えよう」と石畳地区を紹介する藤井麗さん

役場ってどんな仕事をしているの？ 内子小3年生が内子分庁を訪問

内子小学校3年生による内子町役場見学が7月6日、内子分庁で行われました。児童は各部署を回り、職員から仕事内容や学びます。自治・学習課では「みんなが住んでいる地域づくりのお手伝い、相撲大会、人権の勉強などたくさんさんの仕事がある」と説明を受け、議会事務局では議場に入り「町のルールやお金の使い方を決めるところ。みんなが話し合って多数決で決めます」と教わりま

す。子どもたちからは「働く時間はどのくらいですか」と、いくつも質問が寄せられていました。



議場で席からの眺めを体験。「見て、画面に映ったよ」と喜ぶ児童

今、命を救う行動ができるよう―― 各施設で救命救急講習会

夏休みを前に、町内の各学校や福祉施設などで救命救急講習が行われました。内子児童館では7月13日、同館の職員が心肺蘇生法やAEDの使用法などを確認しました。指導した内子消防署の矢野泰成さんは「胸骨圧迫は1分間に100こ

120回。意識が戻るまで続けて」と説明。小児の誤嚥への対処なども併せて伝えました。講習を受けた竹尾一哉さんは「緊急時に落ち着いて対応するために、学ぶことが大切。安心して子どもを預けてもらえるよう、知識を深めたい」と話しました。



胸骨圧迫の強さや速さを計測。正しい方法を実践しながら学んだ

小田分校の2年生が職場体験 働く大変さも喜びも学んだ3日間

内子高校小田分校のインターンシップが7月14～16日の間、町内外の17事業所で行われました。同校の2年生29人が職場での体験を通して、働くことと自身の将来へのイメージを膨らませました。

ている店だけど、緊張した。地域の人に声をかけてもらい、うれしかった」と振り返りました。

道の駅小田の郷せせらぎでは3人が体験。販売所でのレジ打ちや、併設する「かじか亭」での配膳などを行った大久保心さんは「普段から通っ

特別養護老人ホーム緑風荘を希望した池田龍平さんは、施設利用者の食事の手伝いなどを体験しました。池田さんは「おばあちゃんっ子で、介護に興味があった。大変さもあるけれど、『ありがとう』と感謝してもらえるのが喜び」と笑顔でした。



歩きながら被写体を探す皆さん。他の参加者の視点も参考になる

カメラ越しに見る町の魅力 協力隊が写真教室を初開催

仲間と一緒に撮影を楽しむながら技術を学ぶ「第1回まちなみ写真教室」が7月18日、MORETIEで開かれました。講師は写真家で地域おこし協力隊の三好巧馬さん。構図やアングルなどの基本を伝え「仲間と互いに高め合うのも大事」と参加者に

アドバイスしました。その後、商店街などを歩いて撮影するフォトウォークを実施。作品を大洲和紙に印刷して仕上げました。飯田衣美さん「八幡浜市は「内子の日常に触れながら普段と違う撮り方ができ、いい経験になった」と満足そうでした。



上_利用者に声掛けをしながら食事をサポートする
下_次々と来客がある道の駅。商品も仕事も幅広い